

学校内科健診における診察時の服装に関してのお知らせ

学校では、1年に1回児童の体の状態を確認するため、学校健診を行っております。このうち内科健診では、胸の音や皮膚や背骨の状態をきちんと確認するため、脱衣での診察を行わせていただいております。子どもは成長するにつれ、一人でお風呂に入るようになり、幼児期と違い、体の異変に気付く機会がだんだん少なくなっていくと思います。自分の体をチェックしてもらう良い機会であるとも考え、上半身脱衣での診察にご理解をしていただきたく思います。

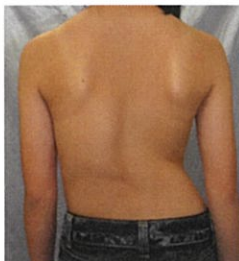
ただ、思春期になると自分の体を人に見せることに抵抗感を持つだろうということも承知しています。そのため、当地区では、中学生の女子の胸の部分に関しては、何らかの衣類で隠すことを基本として内科健診を行うようにしております。小学生に関しては、養護教諭と校医が相談の上、服装をどうするかについて決めております。

また、背中に関しては、背中の骨が曲がる病気（脊柱側弯症）の診断のため、全学年で脱衣での診察を基本とさせていただいています。脊柱側弯に関しては、症状がほとんどなく進行していき、自分で気づくことがほとんどありません。初期で発見すると、手術など侵襲の激しい治療をしなくて済み、学校健診は発見の良いチャンスだと考えております。背部の脱衣の診察に関しては、ご理解をお願いしたいと思います。

ただ、どうしても脱衣になることを本人が拒む場合は、学校側に相談してみてください。着衣のまま診察したり、代わりに養護教諭に診てもらうようなことも考慮します。この場合、見逃しが増たり、判定不能になったりすることがあることをご了承ください。

脊柱側弯症に関して

脊柱側弯症のチェックに関しては、親御さんにもお願いしている所ですが、このチェックは難しく、側弯があるのに「ない」と判定したり、側弯がないのに「側弯疑い」と診断することがあります。特に最近腰の骨が曲がるが増えてきているため、図のようにズボンを下げ腰のラインも気を付けてチェックしていただけたらと考えております。また親御さんが「脊柱側弯疑い」と判断したが、医師が「異常なし」とした場合、それでも気になる場合は医療機関（整形外科）を受診してもらうとよいでしょう。1回の視診のみでは、確実な判断は難しいのが実情です。



ズボンを下げ腰のラインも確認

豊田加茂医師会 学校保健委員長 大澤正彦